

札幌地区使徒職大会を 10 月 5 日（日）藤女子大学で開催しました。大会テーマは「キリストとの出会いⅡ」です。

昨年に引き続き日本カトリック典礼委員会の宮越俊光さんを講師に招き、「キリストとの出会い～シンボルで味わう典礼・礼拝」と題する講演をしていただきました。

キリスト教の典礼・礼拝では、所作、祭具、祭服、場所など多様なシンボルが用いられます。宮越先生の講演を聞き、典礼におけるシンボルの理解を深め、豊かな典礼・ミサに結びつけたいとの思いを新たにしました。

『古来、多くの文化や宗教は、人間が神的、超越的、神秘的な何ものかを捉えるために、人間の感覚で理解できる自然物や図像やしぐさなどをシンボル（象徴）として用いてきた。シンボルは「それを用いる人々がシンボルの示す意味についての共通理解をもっているときに機能し、共同体のきずなを深める」キリスト教においては何よりも「わたしを見た者は、父を見た」（ヨハネ 14・9）という言葉の通り、「イエスの生涯が最も根本的なシンボルとなり、神との出会いへと招く」教会の中の種々のシンボルも、すべて神の救いの計画、キリストの過越の秘義（受肉・生涯・死と復活）にこそ関わり、それを指し示そうとしている。そして神の民の典礼・礼拝それ自体が、神の臨在を証しする中心的なシンボルである。』

講演後、200 人を超える参加者が 21 のグループに分かれて「キリストとの出会い体験」を交換し合いました。この話し合いは「小教区の壁を越えた信徒の交わり」の体現の場となりました。

午後からは、勝谷司教司式のミサで約 450 名の方が現存するキリストを意識して典礼に与りました。また、聖歌隊は少人数でしたが、ミサを構成する大事な役割であることを理解し、会衆とともに賛美の歌を一生懸命に歌いました。さらに、ミサの中の合同堅信式で堅信を受けた 12 名の信徒はミサ後に会場で紹介され、喜びと拍手に包まれました。より良い大会の開催にむけて、大会スタイル（次第）についての感想、意見を各小教区に聞いています。